

紫竹学林会通信

2018年12月10日 No.26

2018年度の第34回「紫竹学林会」の会合を2019年1月26日（土）に、大学院棟のある深沢キャンパスにて以下の要領で開催いたします。今回は、本年度で定年退職される櫻井明久先生（駒澤大学文学部教授）に「リンブルク地域、ケルン・ボン大都市圏にみる農村と都市」と題して最終講義をお願いいたしました。また同日、地理学教室主催の「修士論文発表会」が「紫竹学林会」の前に開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、会への出欠を1月18日までにEmailかFaxでご連絡いただきたくお願い申し上げます。
(幹事)

日時：2019年1月26日（土）

会場：駒澤大学 深沢キャンパス・アカデミーホール2階2-1 講義室

修士論文発表会（地理学教室主催）

【修論発表会】 14:00～15:00（発表20分+質疑10分）

佐野 誠：「地域公共交通導入に向けた取り組み－横浜市を事例に－」 14:00～14:30

東田大樹：「道の駅の設定・運営における行政の関与－群馬県を事例に－」 14:30～15:00

紫竹学林会（最終講義・総会・懇親会）

【櫻井明久先生最終講義】 15:30～17:00（修士論文発表会と同会場）

「リンブルク地域、ケルン・ボン大都市圏にみる農村と都市」

櫻井先生は1998年4月に、宇都宮大学教育学部から本学地理学科に教授として着任されました。ご専門はドイツの農村地理学・地誌学で、1989年には『西ドイツの農業と農村』を、2018年には『北西ヨーロッパの空間構造』を出版されました。同時に、本学でも地理教育もご担当され、1999年には『地理教育学入門』を、2011年には『社会科教師のための地理教材の作り方』（いずれも古今書院）を出版されました。先生には、これまでのご研究を中心に、駒大での20年間の研究・教育生活を含めて、最終講義をお願いしました。

講義要旨：第二次世界大戦後における旧西ドイツ地域において、農業の近代化、農村集落の住宅地化から、田舎町、地方都市、大都市の変化を考え、中小都市が密集する北西ヨーロッパの中心部を考察してみたい。

【総会】 17:00～17:20（大学院OB会員・院生のみ）：2018年度会計報告，その他

【懇親会－櫻井先生を囲んで－】 17:30～19:30

*学部生や卒業生などどなたでも参加可ですが必ず事前に出席の連絡を地理学科高橋までお願いします。

takahasi@komazawa-u.ac.jp

会場：駒澤大学深沢キャンパス 洋館小ホール 会費：5000円（院生・学部生：2500円）